

令和4(2022)年度 ウィークエンド青少年セミナー④実施報告

実施日：令和4年11月5日（土）

本セミナーは、次代を担う青少年が、同世代の仲間との話合いやイベント企画をとおして、青少年自らがボランティア活動に主体的に参加・参画する意識・意欲を高められるよう、演習を中心とした主体的な学びを中心に、9～12月に全5回の内容で実施します。

第4回は宇都宮大学陽東キャンパスで行われ、12月17日（土）に開催される総合教育センター開放事業「学びの杜の冬休み」での講座の準備を進めました。

演習「学びの杜の冬休みで参加者と一緒に楽しめる企画を考える③」

総合教育センター職員

最初に、前回までの振り返りと今回の到達目標を確認しました。今回は、継続的に地域活動、ボランティア活動をしていくために、自らの活動を評価していくことの大切さについて話しました。そして、評価に基づいて「次の」活動への改善点を整理し、充実させていくプロセスを確認しました。また、活動の企画、運営にあたって、活動者の視点だけでなく、参加者の視点でも見つめ直すことの重要性についても確認しました。活動者、参加者双方にとって、充実した時間になるよう、高校生・大学生らしい視点でよりよい講座になるよう工夫を重ねてほしいと思います。

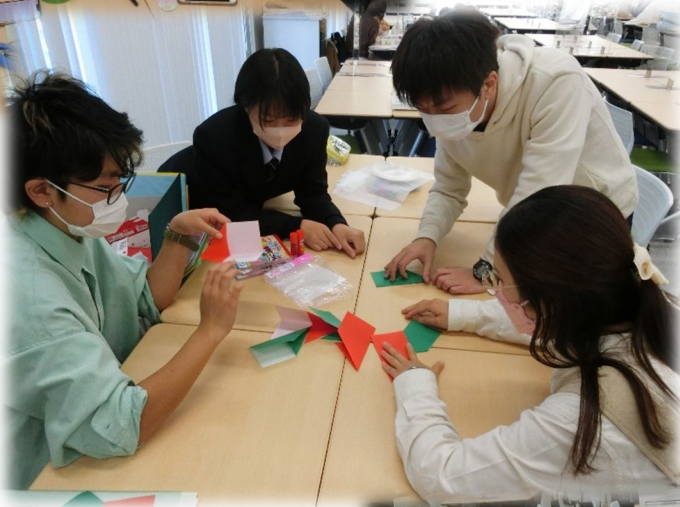


その後、グループ毎に分かれて、学びの杜の冬休みで実践する講座の準備に入りました。前回の研修では気付かなかった部分なども見付き、よりよい活動になるよう、試行錯誤しながら準備を進めていました。受講者は、前回に引き続き、グループでアイデアを出し合い、話合いを進めていく中で、自分から積極的に意見を出すことや、他の意見を尊重しながら柔軟に内容を変更していくことの大切さに気付いていたようです。

最後に、高校生・大学生が小学生に講座を実施する意義について考えました。地域の中でのつながりの大切さ、特に世代間のつながりの大切さについての話題を提供し、それを基に、受講者それぞれがどのように社会参画していくか考えていました。

* 受講者の感想より *

- 活動だけに目を向けるのではなく、その活動の目標と評価を意識して、活動を継続していくことの大切さを学んだ。
- 自分たちの活動を客観的に見ることは大切だと思った。お互いに意見を出し合うことは大切だと感じた。
- 目標に向けて、その達成のために工夫する（今回では学びにつなげる工夫、分かりやすさ、体験しやすさを意識すること）プロセスが大切だと感じた。
- 参加者の様子を一人一人丁寧に見て、よりよい学びを提供できるよう配慮できればと思った。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp